様式第２号の１－①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	大阪大谷大学
設置者名	学校法人大谷学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	日本語日本文学科	夜・通信	64	17	40	121	13	
	歴史文化学科	夜・通信			34	115	13	
教育学部	教育学科	夜・通信			241	305	13	
人間社会学部	人間社会学科	夜・通信		25	229	318	13	
	スポーツ健康学科	夜・通信			76	165	13	
薬学部	薬学科	夜・通信			98	98	19	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

jitumukeiken_kyouintantou_2023.pdf (osaka-ohtani.ac.jp)

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	大阪大谷大学
設置者名	学校法人大谷学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ掲載【 https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/disclosure/ 】

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	学校法人名誉理事長・学園長	R2.12.14 ～ R6.12.13	高等教育における意見を学園運営に反映する
非常勤	株式会社役員	R2.12.14 ～ R6.12.13	産業界の意見を学園運営に反映する
非常勤	元宗教法人宗務者	R2.12.14 ～ R6.12.13	宗教的立場の意見を学園運営に反映する
非常勤	元学校長	R2.4.1 ～ R6.3.31	中等教育における意見を学園運営に反映する
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪大谷大学
設置者名	学校法人大谷学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 授業計画（シラバス）の項目として、到達目標、成績評価の方法、評価基準や授業の方法及び内容を必ず記載することになっている。 毎年、12 月までに専任教員と非常勤講師それぞれに、授業計画（シラバス）作成に向けての FD 研修会を開催し、1 月中に授業計画（シラバス）シラバスの作成を依頼している。2 月以降には、全学の教務委員が、授業計画（シラバス）作成の FD 研修会で依頼した事項が反映されているか確認作業を行うと共に、専任教員のシラバスについては、FD 研修会を開催し、専任教員全員による確認作業も実施している。その中で、誤りや不適切な表現があるものについては修正を依頼し、3 月末の学生への公表を目指して作業を進める。	
授業計画書の公表方法	https://portal.osaka-ohtani.ac.jp/wp/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 大阪大谷大学成績評価ガイドライン基づき、授業科目ごとに関連付けられたディプロマ・ポリシーの項目に準拠して定められた学習到達目標が、どの程度達成されたかを観察および検証が可能なように成績評価基準を定めることとしている。また、成績評価は、筆記試験や口述試験、小論文のほか、準備学習の成果、発表や討論など日常的な学習活動状況などのなかから、授業科目の授業形態や授業内容に適するように複数の方法を組み合わせて行うこととしている。 各授業科目の成績評価の基準およびその方法は、学習到達目標との関係に留意しながらシラバスに明記し、必要に応じて授業内においても受講生に周知している。 各授業科目の成績評価結果に対して、学長および学部長は、それぞれの科目の内容や特性を勘案して、必要に応じて担当教員に説明を求めることとしており、成績評価の第三者による検証を実施する。一方、受講生からの成績疑義の申し出や成績の根拠に関する説明の求めがあれば、担当教員は適切に成績評価の対象となる成果物を示し、評価結果について可能な限りフィードバックし、その説明責任を果たすものとしている。	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

各授業科目の成績分布および授業科目内における GP の統計値を Web により公表する。なお、GPA の指標や算出方法は学科の履修マニュアルや学内ポータルサイトに掲載しており、その内容は以下の通りである。

成績評価と GP
各科目の成績評価および評価を数値化した GP（Grade Point）を以下の表のように定めている。

評価	評価基準	GP
秀(100～90)	学習到達目標を充分に達成しきわめて優秀な成果をあげている	4
優(89～80)	学習到達目標を充分に達成している	3
良(79～70)	学習到達目標を概ね達成している	2
可(69～60)	学習到達目標を最低限達成している	1
不可(59～0)	学習到達目標を達成していない	0
認定	学習到達目標を達成している	－

GPA の算出方法
履修科目の成績評価を GP に置き換えて、以下の式のように算出する。
GPA =（履修登録科目の単位数×履修登録科目で得たＧＰ）の合計数÷履修登録科目の総単位数
GPA の種類
各学期で履修した科目について算出した GPA を学期 GPA、1 年次から当該期までのすべての履修科目について算出した GPA を累積 GPA と呼ぶ。学期 GPA は短期的な学修成果を、累積 GPA は入学してから現在までの学修成果の積み重ねを表す指標になる。
GPA 算出の対象科目
原則として履修科目すべてを GPA の計算対象とする。
ただし、成績評価が「認定」か「不可」のみで行われる認定科目、履修科目取消制度により取り消された科目については除外される。
履修登録科目の取消
事情により履修を取りやめたい科目があるとき、登録を取り消すことができ、GPA の計算からも除外される。全科目対象としているが、必修科目・抽選科目・実験実習費徴収科目は除く。取消の期間は、３回目の授業終了後に設定している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	修学の支援に関する法律に基づく減免者の成績については、年度末の　年間 GPA の成績分布により全体の 1/4 以上の成績を満たしているか　確認できるよう情報を WEB に掲載している。 https://www.osaka-ohtani.ac.jp/files/2022GPAbunpujyokyohyo.pdf

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 本学では建学の精神と教育理念に基づき、学生がどのような力を身につけて卒業できるのかというディプロマ・ポリシーを学科ごとに定めている。ディプロマ・ポリシーは、ホームページや学習マニュアルに掲載し、学生や広く一般に提示している。 ディプロマ・ポリシーは以下の通りである。 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） 全学科とも、ディプロマ・ポリシーは以下の５つの項目から構成されており、この項目を柱に各学科のディプロマ・ポリシーが策定されている。 1. 報恩感謝の心と幅広い教養 2. 専門的な知識・技能 3. 問題解決能力 4. 自律的・主体的・共感的態度 5. 実践力 また、各科目におけるディプロマ・ポリシーのとの関連性をカリキュラムマップやシラバスに掲載しており、シラバスの到達目標とも合わせ、各授業科目の履修によって獲得できる能力や態度を確認することができる。さらに、入学時と３回生におけるアセスメントテストにより汎用的技能（リテラシー・コンピテンシー）に関わる能力についても客観的に評価する。 さらに卒業に向けての取り組みとして、学期内の GPA が二期連続して 0.67 を下回った場合は学部による退学勧告が行われるほか、学期 GPA が 1.5 を下回った場合も、アドバイザー教員等との個人面談・学修指導が行われ、修学意欲の向上に努めている。 全学部とも、各学科のディプロマ・ポリシーで定めているすべての能力・資質が問われる「卒業研究」（または「卒業論文」）を、最終学年次の必修科目として課している。卒業直前に提出された卒業論文の審査・評価も含め、すべての学業成績をもとに教授会により卒業判定の審議がなされる。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/diploma_policy.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	大阪大谷大学
設置者名	学校法人大谷学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ohtanigakuen.jp/assets/document/taishakutaishouhyou_r03.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.ohtanigakuen.jp/assets/document/jigyoukatudousyuusikeisansyo_r03.pdf
財産目録	https://www.ohtanigakuen.jp/assets/document/zaisanmokuroku_r03.pdf
事業報告書	https://www.ohtanigakuen.jp/assets/document/jigyouhoukokusho_r03.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.ohtanigakuen.jp/assets/document/kanjikansahoukokusho_r03.pdf

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/disclosure/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/jihee.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　文学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/literature/）
（概要） 文学・言語・歴史など多様な人間文化に関する基礎的知識を習得し、専門分野を探求することによって普遍的かつ創造的な思考力と表現力を身につけ、人間と社会に対する洞察力を備えた人材を育成する。 日本語日本文学科は、幅広い教養と正確な情報分析に基づく考察力や判断力、そして豊かな表現力を習得させる。 歴史文化学科は、過去の人間の歴史や文化についての理解を深め、歴史的な視点から現在および未来における人間・社会について洞察できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/literature/）
（概要） 1. 文化や自然に関する幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。 2. 文学・言語・歴史など多様な人間文化に関する基礎的・専門的知識を修得し、課題を理解し、説明することができる。 3. 文字言語と音声言語によるコミュニケーション能力を備え、人間文化に関する学問的な課題について、体系的・客観的な情報分析に基づいて考察し、判断する能力を身につけている。 4. 在学中に修得した知識を活かし、卒業後も自立的に学習を継続する姿勢を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/literature/）
（概要） 各学科の設定する教育目的を実現するために、8 つないし 9 つの原則を学科毎に設け、それぞれの教育課程を編成する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/literature/）
（概要） 【日本語日本文学科】 本学は、建学の精神である「報恩感謝」に基づく教育理念として、「自立・創造・共生」を掲げています。この教育理念のもと、日本語日本文学科は、日本語および日本文学に関する知識と幅広い文学的素養を身につけ、他者との相互理解を深めて、協働して諸課題を解決することができる人材の育成を目指します。 そのために、日本語日本文学科は、総合型選抜入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、社会人入試、外国人留学生入試などを行い、以下のような資質を持った勉学意欲の高い学生を受け入れます。 入学者に求める資質 1. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、特に国語に関する基礎的・基本的な知識をもっている。

2. 基礎的・基本的な知識に基づいて筋道を立てて考え、表現することができる。
3. 主体的に学び、知識や考察を深める姿勢を身につけている。
4. 日本語・日本文学や日本文化に高い関心があり、その知識を社会で活かすために、積極的に学びたいという意欲をもっている。
5. 多様な人々と協働して日本語･日本文学および日本文化に関わる課題に取り組むことができる。

【歴史文化学科】
本学は、建学の精神である「報恩感謝」に基づく教育理念として、「自立・創造・共生」を掲げています。この教育理念のもと、歴史文化学科は、日本および諸外国の歴史や文化に関する知識、技能を身に付け、他者と協働して諸課題を解決することができる人材の育成を目指します。
そのために、歴史文化学科は、総合型選抜入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、社会人入試、外国人留学生入試などを行い、以下のような資質を持った勉学意欲の高い学生を受け入れます。
入学者に求める資質
1. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、特に社会（地理歴史）、国語、英語に関する基礎的・基本的な知識をもっている。
2. 基礎的・基本的な知識に基づいて自らの意見をまとめ、筋道を立てて伝えることができる。
3. 主体的に学び、知識や考察を深める姿勢を身につけている。
4. 歴史や文化に対して高い関心があり、その知識を社会で活かすために、積極的に学びたいという意欲をもっている。
5. 多様な人々と協働して歴史や文化に関わる課題に取り組むことができる。

学部等名　教育学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/education/）
（概要） 教育の原理・基本概念と多様化する社会との関係を理解した上で、予測困難な社会を生き抜く人材を育成するための教育を実践できる教員育成をめざす。高い専門性と優れた実践力を持ち、常に向上し続ける教育者を育成する。そのため、現代社会の諸問題を広い視野から多角的にとらえ、教育学の立場から分析・対策を深く追求する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/education/）
報恩感謝の心と幅広い教養 1. 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。 2. 文化や社会、自然に関する幅広い教養を身につけ、自己の存在と関連づけて理解できる。 専門的な知識・技能 1. 乳幼児、児童、生徒の成長・発達のみちすじを理解することができる。 2. 各専攻の目指す職業人として必要な専門的知識・技能を修得している。 問題解決能力 1. 社会の変化・高度化に伴う課題を発見し、必要な情報を収集して分析・判断し、対応することができる。 2. 専門的な知識・技能に基づいて、知見や提案を他者に分かりやすく説明し、協働して問題解決を図ることができる。 自律的・主体的・共感的態度 1. 教育・保育活動に対して深い関心と高い熱意を示し、自律的・主体的・継続的に自己研鑽を積むことができる。

2. 人間に対する洞察力と客観的な視座を保持しながら、多様な人々に共感的態度で接することができる。

実践力

1. 発達に応じた保育・授業の構成や教材・教具の工夫ができる。
2. 個に対応した指導や支援ができる。
3. 大学での学びをもとに、他者のために行動する力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/education/）

（概要）

編成の方針

建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、教育学部教育学科では、「教員養成を主たる目的とする」学部・学科として、教員としての豊かな人間性と高い実践力を養成することを目的としてカリキュラムを編成している。その際、「幼児教育専攻」「学校教育専攻」「特別支援教育専攻」それぞれの独自性を大切にするとともに、教育、学校、乳幼児・児童・生徒、家庭や社会に関する基礎的・基本的な知識・技能、考え方については、教育学部の学生全員が共通して履修できるように編成している。

カリキュラムの構成

1．豊かな人間性と幅広い教養を備えることをめざし、共通教育科目として、建学の精神と教育理念に則った人格形成を行う「必修科目」、外国語コミュニケーション能力を育成する「外国語科目」、多様な教養を身につけさせる「選択科目」を配置している。また社会人に必要な知識やスキルを身につけて、自身にあった職業選択につなげていく「キャリア教育科目」も設置している。

2. 専門教育科目としては、「幼児教育専攻」「学校教育専攻」「特別支援教育専攻」それぞれの独自性を大切にして、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」を配置するとともに、教育学科全体に共通する基礎的・基本的な知識・技能、考え方の形成につながる科目を「専門共通科目」として１年次に配当している。2 年次以降には、それぞれの専攻に必要とされる専門性と実践力を形成することを目的とした科目を配置した構成としている。 各専攻、各免許状や資格に必要な科目を履修するだけでなく、視野と専門性を広げること、また学校園間の連携を担える人材の育成を視野に入れて、多様な選択科目の履修を可能としているのも編成上の特徴である。

教育内容・方法

1. 報恩感謝の心と幅広い教養

1. 互いの「いのち」を尊び、その恩をたずね、すべてのものに感謝する心を持てる学生を育てるために、「宗教学」を開講し、「建学の精神」の意識化を促す。ひいては、社会の発展と知見の創造、そして文化の向上に資する学生の人格形成を支援する。
2. 人間性の育成ならびに教師として必要な幅広い教養を身につけるために、共通教育科目、外国語科目を中心に多様な設置科目を１年次から配当している。共通教育科目については、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「総合」の４領域から選択して履修することを義務づけており、幅広い教養の形成をめざしたカリキュラムとなっている。

2、専門的な知識・技能

教員に必要な資質の獲得をめざして、「教科に関する科目」「教職に関する科目」を中心に１年次から４年次まで、学習の積み重ねができるように編成している。その際、「教科に関する科目」で習得した知識・技能を「教職に関する科目」につなげることができる学年配当としている。

それに加えて、免許状必修科目以外の多様な専門科目を設置し、専門的な知識・技能の幅を広げ、深めるとともに、他免許状や他専攻関係の設置科目も受講可能にし、各学校園の独自性や学校園間の連携についても学ぶことができる編成としている。

3. 問題解決能力
学校園に起こっている現代的な課題に焦点を当てて学ぶ科目を３年次以降に配当し、個別学習とグループワークを組み合わせて、調査、発表、討論、まとめなどの学習を行い、課題探究から問題解決に至る筋道とその方法を獲得することを目的とした編成を行っている。

4. 自律的・主体的・共感的態度
少人数でのゼミナールを１年次から４年次まで設置し、学生自身による進行、発表・討論の機会での他者の意見を尊重した話し合いなどの経験を通して、教員や学生同士がともに学び合い、互いの考えを認め合うことを重視した教育を行っている。その上で、自ら課題を設定し、その解決に向けて調査・研究を行うことを通して、諸問題に対して主体的・積極的に向かい合い、解決しようとする姿勢を形成することができる編成となっている。

5. 実践力
教育実習を３年次に配当し、１～２年次の間にそれに必要な知識・技能の獲得が可能な編成を行い、教育実習後は、現在の教育課題と自身の教職における課題の両方を学ぶことができる科目を配当している。
演習科目や体験的な学習において、教育現場への見学、教育課題の発見、指導・支援計画の作成、模擬授業、自己評価ならびに相互評価の機会を多く設置し、現在必要とされる実践力の育成をめざした編成をしている。

評価の方法
授業の参加の様子、発表、レポートなどで各授業での学習の到達を評価・確認するとともに、学期末の試験等によって学習の到達を評価・確認している。
レポートや提出物、授業時間内の作品等、学生が作成したものについては、適宜フィードバックを行い、学生自身が達成を確認できるようにしている。
最終的に、卒業研究において、知識や技能を活用する能力を総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/education/）

（概要）
【幼児教育専攻】
本学は、建学の精神である「報恩感謝」に基づく教育理念として、「自立・創造・共生」を掲げています。この教育理念のもと、教育学科幼児教育専攻は、幼児教育をめぐる課題を発見し、幅広い教養と専門的な知識・技術によって問題解決を図る能力を身につけ、他者に共感し、他者と協働して個に応じた適切な指導や支援ができる実践力を備えた人材の育成を目指します。
そのために、教育学科幼児教育専攻は、総合型選抜入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、社会人入試などを行い、以下のような資質を持った勉学意欲の高い学生を受け入れます。
入学者に求める資質
1. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、特に国語に関する基礎的・基本的な知識をもっている。
2. 基礎的・基本的な知識に基づいて論理的に考えて伝えることができる。
3. 大学内外の様々な学びの活動に自ら進んで取り組む姿勢を身につけている。
4. 幼児教育や児童福祉に高い関心があり、保育職に就く意志をもち、子ども・子育てをめぐる社会の出来事を多角的な視点でとらえようとする強い意欲をもっている。
5. 他者の思いや考えを受けとめ、他者に自分の思いや考えを筋道を立てて説明し、仲

間と助け合いながら共に学ぶことができる。

【学校教育専攻】
本学は、建学の精神である「報恩感謝」に基づく教育理念として、「自立・創造・共生」を掲げています。この教育理念のもと、教育学科学校教育専攻は、教育に対して深い関心と高い熱意を示し、幅広い教養と専門的な知識・技術によって問題解決を図る能力を身につけ、自律的・主体的・共感的態度を持ち、発達に応じつつ個に対応した指導ができる実践力を備えた人材の育成を目指します。
そのために、教育学科学校教育専攻は、総合型選抜入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、社会人入試などを行い、以下のような資質を持った勉学意欲の高い学生を受け入れます。
入学者に求める資質

1. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、特に国語、英語に関する基礎的・基本的な知識をもっている。
2. 基礎的・基本的な知識に基づいて論理的に考えて伝えることができる。
3. 自主的に学習活動へ取り組む姿勢を身につけている。
4. 学校教育に高い関心があり、教育職に就く意志をもち、児童・生徒をめぐる社会の出来事を多角的な視点でとらえようとする強い意欲をもっている。
5. 主体的に課題を発見し、他者と協働して積極的にその課題に取り組むことができる。

【特別支援教育専攻】
本学は、建学の精神である「報恩感謝」に基づく教育理念として、「自立・創造・共生」を掲げています。この教育理念のもと、教育学科特別支援教育専攻は、幅広い教養と支援教育に必要な専門的な知識・技能に裏づけられた問題解決能力を身につけ、他者と協力しながら特別支援教育を推進し続ける実践力を有する人材の育成を目指します。
そのために、教育学科特別支援教育専攻は、総合型選抜入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、社会人入試などを行い、以下のような資質を持った勉学意欲の高い学生を受け入れます。
入学者に求める資質

1. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、特に国語、英語に関する基礎的・基本的な知識をもっている。
2. 基礎的・基本的な知識に基づいて論理的に考えて伝えることができる。
3. 主体的に学び、知識を深め、実践力を高める姿勢を身につけている。
4. 特別支援教育に高い関心があり、将来それに携わる意志をもち、この領域を積極的に学びたいという意欲をもっている。
5. 他者に対して共感する心をもち、また、他者と協働して積極的に課題に取り組むことができる。

学部等名　人間社会学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/human_societies/）
（概要） 本学の建学の精神と教育理念に基づき、「人間と社会」の関係について科学的視点から多角的に研究教授するとともに、グローバル化や情報化の進展に伴う人および社会の課題に対して解決策を企画・実践する能力を身につけた人材を育成し、社会の発展と向上に寄与する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/human_societies/）

概要）
所定の期間在学し、学部の教育目的に沿って設定された授業科目を履修して基準となる単位数を修得し、かつ卒業論文を作成して審査に合格することが学位授与の要件である。
1. 文化や自然に関する幅広い教養と豊かな人間性を身に付けている。
2. 生涯にわたって学び続けたいという意欲とそのための知識・技能を持っている。
3. 本学部の学問領域に関する基礎知識を習得している。
4. 本学部の学問領域における諸課題を科学的に分析し、解決策を企画することができる。
5. 本学部の学問領域における諸課題に積極的に関与する態度をもつことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/human_societies/）

（概要）
1. 建学の精神に基づく人格教育
互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合う社会の創造に資する学生の人格形成を支援するために、「宗教学」を初年次の必修とし、入学直後から建学の精神について学ぶ。
2. 多角的な視点を身につける教養教育
幅広い学びを保障し、多角的な視点を身につけられる教養教育を実践するため、語学を必修として設定し、「人文科学」「社会科学」「自然科学」の 3 領域から履修科目を選択する。
3. 自己実現を支援するキャリア教育
大学での学び方や自己の特性を知り、社会人に必要な知識やスキルを身につけるために、自身にあった職業選択につながるキャリア教育を実施する。
4. 学生のニーズにていねいに対応する少人数指導
少人数編成科目を初年次から最終学年まで縦断的に設置する。
5. 学ぶための基盤を確実にする初年次教育
大学での学習に必要なスキルと態度を身につける。
6. 専門領域を横断する学際的教育
異なる学問領域間の連携を推進し、学際的な学びを実現する。
7. 基礎から発展までの体系的カリキュラム
基本知識と技能の習得から始め、学年進行にあわせ科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/human_societies/）

（概要）
【人間社会学科】
本学は、建学の精神である「報恩感謝」に基づく教育理念として、「自立・創造・共生」を掲げています。この教育理念のもと、人間社会学科は、人と社会に関する諸問題を解決するための知識、技能を身に付け、これを応用し、問題を解決できる人材の育成を目指します。
そのために、人間社会学科は、総合型選抜入試、指定校推薦入試、特別推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、社会人入試、外国人留学生入試などを行い、以下のような資質を持った勉学意欲の高い学生を受け入れます。
入学者に求める資質
1. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、特に国語、社会、英語に関する基礎的・基本的な知識をもっている。
2. 基礎的・基本的な知識に基づいて論理的に考え、わかりやすく説明することができ

る。
3. 自主的に学習する習慣を持っており、主体的・協力的な取り組み姿勢・態度を身につけている。
4. 人や社会に高い関心があり、企業や福祉、教育の現場などの職場で社会に貢献するために、積極的に学びたいという意欲をもっている。
5. 多様な人々と協働して人と社会の課題に関わり、取り組むことができる。

【スポーツ健康学科】
本学は、建学の精神である「報恩感謝」に基づく教育理念として、「自立・創造・共生」を掲げています。この教育理念のもと、スポーツ健康学科は、スポーツを通じて、人が生涯にわたり健康で豊かな生活を送るために必要な知識と技能を修得し、「人間と社会」の関係を科学的な視点から探求することにより、地域において多角的にスポーツ活動に携わり、人々の健康増進を支援し貢献できる人材の育成を目指します。
そのために、スポーツ健康学科は、総合型選抜入試、スポーツ推薦入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、社会人入試や外国人留学生入試などを行い、以下のような資質を持った勉学意欲の高い学生を受け入れます。
入学者に求める資質
1. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、特に国語、英語、保健体育に関する基礎的・基本的な知識をもっている。
2. 基礎的・基本的な知識に基づいて論理的に考え、わかりやすく表現することができる。
3. これまでのスポーツ活動で得た経験をもとにその知識と技能を深める姿勢を身につけている。
4. スポーツに高い関心があり、それを通じて社会に貢献するために、スポーツの普及や健康運動の指導、次世代の健康づくりを積極的に学びたいという意欲をもっている。
5. 超高齢社会における人々の健康づくりや食生活に関心があり、多様な人々と協働して健康増進に関する課題に取り組むことができる。

学部等名　薬学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/pharmacy/）
（概要） 本学の建学の精神と教育理念に基づき、生命科学・医療科学的専門知識と技能、自主的な判断力と問題解決能力、実践力と研究能力を備え、高い倫理観を有する人間性豊かな薬剤師を養成し、もって国民の健康・福祉の向上に寄与する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/pharmacy/）
（概要） 報恩感謝の心と幅広い教養 1. 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。 2. 生命の尊厳について深い認識をもち、幅広い教養を基に豊かな人間性を身に付け、人々の健康な生活に貢献する使命感と高い倫理感を有する。 専門的な知識・技能 医療及び公衆衛生の向上に貢献できるよう、薬学領域における専門的な知識･技能を修得している。

問題解決能力
医療現場における課題を見出し、問題解決に向けて、修得した知識・技能を基に判断し、他者と協働して創造的にアプローチすることができる。
自律的・主体的・共感的態度
1. 医療や科学の変化や高度化に対応して高い知識と技能を修得するよう、継続して自己の専門性を高め、後進を指導・育成する意欲と態度を身につけている。
2. 他職種の人々と主体的に連携するコミュニケーション能力を有し、患者や生活者の立場に立って行動できる態度を身につけている。
実践力
生命科学や創薬、薬物治療法、薬学的管理に関する知識・技能を活用し、他者のために行動する力および研究能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/pharmacy/）

（概要）

編成の方針
建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、薬学部薬学科では、「科学的な専門知識と技能および実践力、高い倫理性と豊かな人間性を併せ持つ薬剤師の養成」を教育目標に定めている。このため、薬学部のカリキュラムは、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠しつつ、かつ、ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能・態度が卒業時までに修得できるよう、1年次から順次性のある学習成果基盤型のカリキュラム編成とする。
カリキュラムの構成
1. 豊かな人間性と幅広い教養を備えることをめざし、共通教育科目として、建学の精神と教育理念に則った人格形成を行う「必修科目」、多様な教養を身につけさせる「選択科目」を配置している。
2. 専門教育科目として、「必修科目」と「選択科目」を設定し、講義、実習、演習を連携させている。基礎系・医療系・衛生系・臨床系薬学科目又はアドバンスト科目へと順次性のある科目配置を行うことで、各科目の修得のレベルを高め、基礎力から実践・応用力を養うように工夫している。一方で、臨床や地域医療で求められる栄養に関する専門知識の修得や資格取得にもつながる、本学独自の養成講座を設けているのが特色である。
教育内容・方法
1. 報恩感謝の心と幅広い教養
    1. 互いの「いのち」を尊び、その恩をたずね、すべてのものに感謝する心を持てる学生を育てるために、「宗教学」「死生学」「生命倫理」を開講し、「建学の精神」の意識化を促す。ひいては、社会の発展と知見の創造、そして文化の向上に資する学生の人格形成を支援する。
    2. 幅広い教養を身につけ、見識ある社会人としての基礎を築き、また、情報を活用したり、多面的・多角的に思考したりする能力を養成するために、人文系科目、社会系科目、外国語科目、薬学導入科目など多様な共通教育科目を設置している。一方、薬剤師としての使命感及び倫理観、並びに、他者から信頼される人間性を養うために、ヒューマニズムや医療倫理に関連した科目並びに実務実習などを、全学年に亘って配置している。
2. 専門的な知識・技能
薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠し、専門教育科目を、「基礎系薬学科目」、「医療系・衛生系薬学科目」さらに「臨床系薬学科目」へと体系的に科目を配置する。4年次および6年次に「薬学演習科目」を配置し、それまでに修得

した知識の統合を促す。さらに、医療や科学の進展に対応できる能力を身につけるために独自に定めた「アドバンスト科目」や「スキルアップセミナー」を開講する一方、学生の多様な進路やニーズに対応するためのキャリア教育科目を開講する。

3. 問題解決能力
問題に基づく学習、グループ討論、実験実習、実務実習、卒業研究など、全学年に亘る参加型学習を通して、観察力や創造力を育みつつ、修得した知識や技能を総合的に活用し、医療や研究の現場で発生する様々な問題に対処できる能力を養えるように体系的に科目を配置している。
4. 自律的・主体的・共感的態度
    1. 医療や科学に関する情報の収集・分析・活用に関する科目、卒業研究やスキルアップセミナーを通して、継続して自己の専門性を高めるための技能と態度を養えるように編成している。
    2. 患者に対応したりチーム内で効果的・効率的に活動するための技能と態度を養うために、コミュニケーション理論や演習の科目を体系的に配置している。
    3. 実務に関連した科目並びに卒業研究を通して、後進を指導・育成する態度、並びに、他者と主体的に連携する態度を醸成するように編成している。
5. 実践力
地域の医療や衛生に貢献できる実践力を養うために、高学年次に実践的な専門科目やアドバンスト科目、又、実務に関連した科目並びに卒業研究を配置している。

評価の方法
筆記試験、実技試験、発表、レポート、取り組み姿勢などを通して、各科目が目標とする知識・技能の修得度を評価する。実務実習や演習及び卒業研究では、日々の実習、学習活動、研究活動、取り組み姿勢などを通して、知識や技能を活用する能力を総合的に評価する。また、各年次における課題レポート、単位取得状況、パフォーマンスなどをもとに、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力と態度をどの程度身につけたかを評価し、卒業時に目標とするレベルの能力・資質を身につけているかどうかを最終判定する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/pharmacy/）

【薬学科】
本学は、建学の精神である「報恩感謝」に基づく教育理念として、「自立・創造・共生」を掲げています。この教育理念のもと、薬学部は、幅広い教養と医療に関する専門的な知識や技能、態度を身に付けることで、科学者の素養を持った、人間性が豊かで、患者中心の医療に貢献できる薬剤師の育成を目指しています。
そのために、薬学部は、総合型選抜入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、社会人入試を行い、以下のような資質を持った勉学意欲の高い学生を受け入れます。
入学者に求める資質
1. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、特に理系科目、英語に関する基礎的・基本的な知識をもっている。
2. 身近な課題に対して、知識に基づいて判断し、自分の意見をまとめ、筋道を立てて伝えることができる。
3. 主体的に学び、知識を深め、技能を高める姿勢を身につけている。
4. 医療、衛生、または生命科学に対する高い関心があり、薬剤師あるいは薬学研究者として社会に貢献するために、薬学を積極的に学びたいという意欲をもっている。
5. 他者に対する共感の心をもち、また、他者と協働して積極的に薬学に関する課題に取り組むことができる。

学部等名　大学院　文学研究科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate/）
（概要） 学問の真理と大乗仏教の精神を尊重し、学術の理論および応用を教授研究し、社会の発展と文化の向上に寄与することを目的とする。 国語学国文学専攻 　上代から現代に至る日本語と日本文学における知識、また日本文化についての豊かな学識を備え、高い研究能力と教育能力を併せ持った人材を育成する。 歴史文化学専攻 　人類が過去に培い、育んできた歴史文化の証としての文化財を、歴史学、美術史学（西洋美術史を含む）、考古学の領域から研究し、専門的研究者としての人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate/）
（概要） 国語学国文学専攻博士課程（前期） 1.　報恩感謝の心と幅広い教養　互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。上代から現代に至る日本語と日本文学の諸相、および日本文化の領域について、幅広い教養を身につけている。 2.　専門的な知識・技能　国語学国文学に関する高度な専門知識と、関連資料を適切に扱う技能を身につけている。 3.　問題解決能力　国語学国文学に関する研究課題を自ら見出し、体系的・客観的な分析を通じて問題解決をはかることができる。新しい知見を創造し表現することができる。 4.　自律的・主体的・共感的態度　自律的・主体的に研究を継続するとともに、客観的な視座を保持し、多様な人々に共感的態度で接することができる。 5.　実践力　修士論文において、資料を的確に理解して先行研究を整理・分析し、研究対象の問題点を正しく把握し、独自の見解を明確な論理によって提示するとともに、社会的に利用価値のある研究が展開されている。 国語学国文学専攻博士課程（後期） 1.　報恩感謝の心と幅広い教養　互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。上代から現代に至る日本語と日本文学、および日本文化の研究者として、自立して研究活動を行うに必要な、幅広い教養を身につけている。 2.　専門的な知識・技能　国語学国文学の研究者として、自立して研究活動を行うに必要な高度な専門知識と、関連資料を扱う専門的技能を身につけている。 3.　問題解決能力　国語学国文学に関する重要かつ斬新な研究課題を自ら見出し、その解決に必要な独創的な研究方法を開発することができる。 4.　自律的・主体的・共感的態度　研究者として自律的・主体的に研究を継続するとともに、客観的な視座を保持し、多様な人々への共感的態度を備えて教育・指導に当たることができる。 5.　実践力　博士論文において、研究領域に関する広範かつ深淵な知識と、独創的研究方法による明晰な分析と論理が提示され、社会的に広く利用価値のある研究が展開されている。 歴史文化学専攻博士課程（前期） 1.　報恩感謝の心と幅広い教養　互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。歴史文化学に関する幅広い教養を身につけている。 2.　専門的な知識・技能　歴史文化学に関する高度な専門知識と、関連資料を適切に扱う技

能を身につけている。
3. 問題解決能力 研究課題を自ら見出し、体系的・客観的な分析を通じて問題解決をはかることができる。新しい知見を創造し表現することができる。
4. 自律的・主体的・共感的態度 自律的・主体的に研究を継続するとともに、他者との共存をはかる共感的態度を身につけている。
5. 実践力 修士論文において、資料を適切に分析し、先行研究を的確に整理し、研究対象の問題点を正しく把握し、独自の見解を明確な論理によって提示するとともに、社会的に利用価値のある研究が展開されている。

歴史文化学専攻博士課程（後期）
1. 報恩感謝の心と幅広い教養 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。歴史文化学の研究者として必要な幅広い教養および関連分野に関する基礎知識を身につけている。
2. 専門的な知識・技能 歴史文化学の研究者として必要な高度な専門知識と、関連資料を扱う専門的技能を身につけている。
3. 問題解決能力 重要かつ斬新な研究課題を自ら見出し、その解決に必要な独創的研究方法を開発することができる。
4. 自律的・主体的・共感的態度 研究の深化・高度化に対応し、自律的・主体的に自己研鑽を積むとともに、共感的態度を備えて教育・指導に当たることができる。
5. 実践力 博士論文において、当該研究対象に関する広範かつ深淵な分析および、独創的な研究方法による明晰な論理を提示するとともに、社会的に広く利用価値のある研究が展開されている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate/）

（概要）
国語学国文学専攻博士課程（前期）

1. 編成の方針
建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、国語学およびその隣接領域である日本語教育学、国文学およびその隣接領域である漢文学に関するに科目を幅広く履修することによって、上代から現代に至る日本語と日本文学の諸相を理解し、国語学、国文学および漢文学、日本語教育学の領域について、研究者に必要な能力を体系的に修得できるようにする。
2. カリキュラムの構成
国語学、国文学、漢文学、日本語教育学の各領域で「演習」を、またこれらの領域に、関連する領域である民俗学・日本美術史を加えて「特殊研究」を設置し、研究者に必要な幅広い教養と専門的な知識・技能、問題解決能力、自律的・主体的・共感的態度、実践力を持つ人材の育成をはかる。
3. 教育内容・方法
    1. 報恩感謝の心と幅広い教養
    演習および特殊研究科目の履修により、報恩感謝の心を身につけ、上代から現代に至る日本語と日本文学および漢文学の諸相に関して幅広い教養を修得する。
    2. 専門的な知識・技能
    演習および特殊研究科目の履修により、国語学・国文学および漢文学、日本語教育学に関する高度な専門知識を修得する。さらに、これらの研究に必要な関連資料を適切に扱う技能を修得する。

3. 問題解決能力
演習科目における研究指導により、国語学、国文学あるいは漢文学、日本語教育学に関する研究課題を自ら見出し、基本的な研究方法を理解して体系的・客観的な分析を行い、新しい知見として表現する能力を修得する。
4. 自律的・主体的・共感的態度
演習科目における研究指導により、客観的な視座を保持しつつ、自律的・主体的に研究を継続すると同時に、多様な人々に共感的態度で接することにより、協働して研究の成果を共有することのできる人材を育成する。
5. 実践力
修士論文の作成により、資料を的確に理解して先行研究を整理・分析し、研究対象の問題点を正しく把握し、独自の見解を明確な論理によって提示する能力を修得するとともに、社会的に利用価値のある研究を展開することのできる人材を育成する。

4. 評価の方法
授業への取り組み、研究発表、試験、レポートなどで研究の到達を評価・確認する。

国語学国文学専攻博士課程（後期）

1. 編成の方針
建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、国語学およびその隣接領域である日本語教育学、国文学およびその隣接領域である漢文学に関するに科目を幅広く履修することによって、上代から現代に至る日本語と日本文学の諸相を理解し、国語学、国文学あるいは漢文学、日本語教育学の領域について、研究者として自立して研究活動を行うに必要な能力を体系的に修得できるようにする。
2. カリキュラムの構成
国語学、国文学、漢文学、日本語教育学の各領域で「演習」を、またこれらの領域に、関連する領域である民俗学・日本美術史を加えて「特殊研究」を設置し、研究者として自立して研究活動を行うに必要な幅広い教養と専門的な知識・技能、問題解決能力、自律的・主体的・共感的態度、実践力を持つ人材の育成をはかる。
3. 教育内容・方法
1. 報恩感謝の心と幅広い教養
演習および特殊研究科目の履修により、報恩感謝の心を身につけ、上代から現代に至る日本語と日本文学あるいは漢文学の研究者として、自立して研究活動を行うに必要な幅広い教養を修得する。
2. 専門的な知識・技能
演習および特殊研究科目の履修により、自立して研究活動を行うに必要な国語学・国文学あるいは漢文学、日本語教育学に関する高度な専門知識を修得する。さらに、研究活動に必要な関連資料を適切に扱う専門的技能を修得する。
3. 問題解決能力
演習科目における研究指導により、国語学・国文学あるいは漢文学、日

本語教育学に関する重要かつ斬新な研究課題を自ら見出し、その解決に必要な独創的な研究方法を開発する能力を修得する。

4. 自律的・主体的・共感的態度
演習科目における研究指導により、研究者として客観的な視座を保持しつつ、自律的・主体的に研究を継続し、多様な人々への共感的態度を備えて教育・指導に当たることのできる人材を育成する。

5. 実践力
博士論文の作成により、研究領域に関する広範かつ深淵な知識と、独創的研究方法による明晰な分析と論理と提示する能力を修得するとともに、社会的に広く利用価値のある研究を展開することのできる人材を育成する。

4. 評価の方法
授業への取り組み、研究発表、試験、レポートなどで研究の到達を評価・確認する。

歴史文化学専攻博士課程（前期）

1. 編成の方針
建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、歴史文化学に関わる様々な科目を幅広く履修することによって、歴史学・美術史学・考古学の各領域における専門的研究を遂行する上で必要な能力を体系的に修得できるようにする。

2. カリキュラムの構成
「研究指導及び演習」、「特殊研究」、「講読」、「課題研究」を設置し、研究者に必要な幅広い教養と専門的な知識・技能、問題解決能力、自律的・主体的・共感的態度、実践力を有する人材の育成をはかる。

3. 教育内容・方法

1. 報恩感謝の心と幅広い教養
「研究指導及び演習」、「特殊研究」、「講読」、「課題研究」の履修により、報恩感謝の心を身につけ、歴史文化学に関する幅広い教養を修得する。

2. 専門的な知識・技能
「研究指導及び演習」、「特殊研究」、「講読」、「課題研究」の履修により、歴史文化学に関する専門知識と、関連資料を適切に扱う技能を修得する。

3. 問題解決能力
「研究指導及び演習」の履修により、研究課題を自ら見出し、体系的・客観的な分析を通じて問題解決をはかる能力を修得するとともに、新しい知見を創造し表現する能力を修得する。

4. 自律的・主体的・共感的態度
「研究指導及び演習」の履修により、専門的研究を自律的・主体的に継続する能力および、他者との共存をはかる共感的態度を身につけた人材を育成する。

5. 実践力
修士論文の作成により、資料を適切に分析し、先行研究を的確に整理し、研究対象の問題点を正しく把握し、独自の見解を明確な論理によっ

て提示する能力を修得するとともに、社会的に利用価値のある研究を展開できる人材を育成する。

4. 評価の方法

授業への参加の様子、授業中の発表・レポートなどによって、各授業時の到達度を個別に評価・確認するとともに、学年末の試験・レポートなどによって授業期間を通じての到達度を総合的に評価・確認する。

歴史文化学専攻博士課程（後期）

1. 編成の方針

建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、歴史文化学に関わる様々な科目を幅広く履修することによって、歴史学・美術史学・考古学の各領域において、自立的に研究を遂行するために必要な、幅広い教養と高度な専門知識および関連資料を適切に扱う技能を体系的に修得できるようにする。

2. カリキュラムの構成

「研究指導及び演習」、「講読」、「課題研究」を設置し、自立的に研究を遂行する上で必要な、幅広い教養と専門的な知識・技能、問題解決能力、自律的・主体的・共感的態度、実践力を有する人材の育成をはかる。

3. 教育内容・方法

1. 報恩感謝の心と幅広い教養

「研究指導及び演習」、「講読」、「課題研究」の履修により、報恩感謝の心を身につけ、歴史文化学に関する幅広い教養および関連分野に関する基礎知識を修得する。

2. 専門的な知識・技能

「研究指導及び演習」、「講読」、「課題研究」の履修により、歴史文化学の研究者として必要な高度な専門知識と、関連資料を適切に扱う技能を修得する。

3. 問題解決能力

「研究指導及び演習」の履修により、重要かつ斬新な研究課題を自ら見出し、その解決に必要な独創的研究方法を開発する能力を修得する。

4. 自律的・主体的・共感的態度

「研究指導及び演習」の履修により、高度な専門的研究を自律的・主体的に継続する能力および、他者との共存をはかる共感的態度を備えて教育・指導に当たることのできる人材を育成する。

5. 実践力

博士論文の作成により、当該研究対象に関する広範かつ深淵な分析および、独創的な研究方法による明晰な論理を提示する能力を修得するとともに、社会的に広く利用価値のある研究を展開するできる人材を育成する。

4. 評価の方法

授業への参加の様子、授業中の発表・レポートなどによって、各授業時の到達度を個別に評価・確認するとともに、学年末の試験・レポートなどによって授業期間を通じての到達度を総合的に評価・確認する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate/）

（概要）
建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、「学問の真理と大乗仏教の精神を尊重し、学術の理論および応用を教授研究し、社会の発展と文化の向上に寄与すること」を目的としています。
この目的を達成するために一般入試、社会人入試（前期のみ）、外国人留学生入試などを行い、以下のような資質を持った研究意欲の高い学生を受け入れます。
国語学国文学専攻博士課程（前期）

1. 上代から現代に至る日本語と日本文学の領域について、一定の知識と資料解読能力とをもつ。
2. 各自の専攻領域について、論理的思考力・判断力・表現力をもつ。
3. 高度な問題解決能力を修得する意欲をもつ。
4. 主体的に研究を継続する意欲をもつ。
5. 多様な人々と協働して諸課題に取り組み、社会に貢献しようとする姿勢をもつ。

国語学国文学専攻博士課程（後期）

1. 上代から現代に至る日本語と日本文学、あるいは漢文学、日本語教育の研究に必要な知識と資料解読能力とをもつ。
2. 各自の専攻領域について、高度な論理的思考力・判断力・表現力をもつ。
3. 斬新な研究課題を見出し、独創的な研究方法を開発する意欲をもつ。
4. 主体的に研究を継続する展望をもつ。
5. 研究者として多様な人々と協働して諸課題に取り組み、社会に貢献しようとする姿勢をもつ。

歴史文化学専攻博士課程（前期）

1. 歴史文化学について、一定の専門的知識と各種資料を適切に扱い読み解く能力を有する。
2. 各自の専攻領域について、論理的思考力・判断力・表現力を有する。
3. 高度な研究課題を自ら見出し、体系的・客観的な分析を通じて問題解決をはかる能力を修得する意欲を有する。
4. 歴史文化学に関する研究を自律的・主体的に継続する意欲を有する。
5. 多様な人々と協働して歴史文化学に関わる諸課題に取り組み、社会的に利用価値のある研究を展開しようとする姿勢・態度を有する。

歴史文化学専攻博士課程（後期）

1. 歴史文化学の研究に必要な高度な専門的知識と高度な資料解読能力とを有する。
2. 各自の専攻領域について、高度な論理的思考力・判断力・表現力を有する。
3. 重要かつ斬新な研究課題を自ら見出し、その解決に必要な独創的研究方法を開発する意欲を有する。
4. 歴史文化学に関わる高度に専門的な研究を自律的・主体的に継続する意欲と展望を有する。
5. 研究者として多様な人々と協働して歴史文化学に関わる諸課題に取り組み、社会的に利用価値のある高度な研究を展開しようとする姿勢・態度を有する。

学部等名　大学院　薬学研究科

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate_pharmacy/）

（概要）
6 年制薬学部を基礎とし、近年の生命科学、化学、情報学、医療等の急速な進歩を踏まえて、多様な課題に高度かつ先進的な専門知識及び思考力をもって取り組むとともに、新たな道を切り拓く先導的人材を育成することにより、薬学、さらには広く社会に寄与することを目的とします。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate_pharmacy/）

（概要）

1. 報恩感謝の心と幅広い教養
    1. 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。
    2. 生命の尊厳について深い認識をもち、幅広い教養を基に豊かな人間性を身につけ、広く社会に貢献する使命感と高い倫理感をもつ。
2. 専門的な知識・技能
   社会の発展と文化の向上に貢献できるよう、薬学領域における専門的な知識･技能を修得している。
3. 問題解決能力
   自ら課題を見出し、問題解決に向けて、修得した知識・技能を基に得た自らの成果を考察し、他者と協働して創造的にアプローチすることができる。
4. 自律的・主体的・共感的態度
    1. 科学や医療、そして社会の変化や高度化に対応して継続して自己の教養と専門性を高め、後進を指導・育成する意欲と態度を身につけている。
    2. 広く社会と連携するためのコミュニケーション能力を有し、他者の立場に立って行動できる態度を身につけている。
5. 実践力
   情報分野、また国際社会に深い理解をもち、専攻分野における高度な専門的知識・技能を活用し、広く社会のために行動する力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate_pharmacy/）

（概要）

編成の方針
建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、薬学に関わる科目を幅広く履修することによって、自立的に研究を遂行するために必要な能力を体系的に修得できるようにする。
カリキュラムの構成
「基盤科目」、「専門科目」、「演習科目」、「特別研究科目」を設置し、自立的　に研究を遂行する上で必要な、幅広い教養と専門的な知識・技能、問題解決能力、自律的・主体的・共感的態度、実践力を有する人材の育成をはかる。
教育内容・方法

1. 報恩感謝の心と幅広い教養
   「特別研究科目」、「演習科目」での個別指導を通じて、報恩感謝の心を身につけ、研究者として、自立して研究するために必要な幅広い教養を修得する。
2. 専門的な知識・技能
   「基盤科目」、「専門科目」、「演習科目」、「特別研究科目」の履修により、研究者として必要な高度な専門知識と思考力を身につける。
3. 問題解決能力
   「特別研究科目」、「演習科目」での個別指導を通じて、課題を自ら見出し、研究を遂行することにより問題解決能力を身につける。
4. 自律的・主体的・共感的態度
   「特別研究科目」、「演習科目」での個別指導を通じて、自ら真理を探求し、共感的態度を備えて教育・指導するための能力を身につける。
5. 実践力
   「基盤科目」、「演習科目」の履修により、情報収集、分析、情報共有・発信能力を修得し、国際的視野を身につけるとともに、「特別研究科目」、「演習科目」での個別指導を通じて、成果を広く社会に展開しようとする姿勢を養う。

評価の方法
授業への取り組み、研究成果、発表等での到達度と日常的な研究・教育姿勢をもとに、総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate_pharmacy/）

（概要）
建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、「学問の真理と大乗仏教の精神を尊重し、学術の理論および応用を教授研究し、社会の発展と文化の向上に寄与すること」を目的としています。
この目的を達成するために一般入試、社会人入試などを行い、以下のような資質を持った研究意欲の高い学生を受け入れます。

1. 研究に必要な基礎学力と多様な能力をもつ。
2. 各自の専攻領域について、高度な論理的思考力・判断力・表現力をもつ。
3. 自ら研究課題を見出し、真理を探求する意欲をもつ。
4. 多様な人々と協働して諸課題に取り組み、社会に貢献しようとする姿勢をもつ。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/disclosure/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	3 人	－					3 人
文学部	－	11 人	6 人	2 人	人	人	19 人
教育学部	－	18 人	13 人	4 人	1 人	人	36 人
人間社会学部	－	15 人	10 人	3 人	人	人	28 人
薬学部	－	17 人	11 人	6 人	13 人	人	47 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
人	人	人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/teacher/

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

学生による授業評価と教員による授業評価

- 成績評価ガイドラインに基づく成績評価の検証
- FD 講演会の開催
- 学生教育改善会議（学生による FD 活動の評価と意見交換）の開催
- 学長表彰

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
文学部	100 人	108 人	108%	400 人	437 人	109%	若干名	1 人
教育学部	230 人	140 人	61%	920 人	767 人	83%	若干名	2 人
人間社会学部	180 人	153 人	85%	720 人	716 人	99%	若干名	2 人
薬学部	140 人	119 人	85%	840 人	785 人	93%	若干名	1 人
合計	人	人	%	人	人	%	人	人

（備考）

b.卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
文学部	89 人 （100%）	2 人 （2.2%）	70 人 （78.7%）	17 人 （19.1%）
教育学部	211 人 （100%）	2 人 （0.9%）	196 人 （92.9%）	13 人 （6.2%）
人間社会学部	171 人 （100%）	3 人 （1.8%）	152 人 （88.9%）	16 人 （9.4%）
薬学部	101 人 （100%）	0 人 （0%）	52 人 （51.5%）	49 人 （48.5%）
合計	572 人 （100%）	7 人 （1.2%）	470 人 （82.2%）	95 人 （16.6%）
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）				
（備考）				

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
合計	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
授業計画(シラバス)の項目として、到達目標、成績評価の方法、評価基準や授業の方法及び内容・授業計画を必ず記載することになっている。
授業計画(シラバス)は、3 月末に学生へ公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
各科目におけるディプロマ・ポリシーのとの関連性をカリキュラムマップやシラバスに掲載しており、シラバスの到達目標とも合わせ、各授業科目の履修によって獲得できる能力や態度を確認することができる。さらに、入学時と 3 回生におけるアセスメントテストにより汎用的技能（リテラシー・コンピテンシー）に関わる能力についても客観的に評価している。
さらに卒業に向けての取り組みとして、学期内の GPA が二期連続して 0.67 を下回った場合は学部による退学勧告が行われるほか、学期 GPA が 1.5 を下回った場合も、アドバイザー教員等との個人面談・学修指導が行われ、修学意欲の向上に努めている。
全学部とも、各学科のディプロマ・ポリシーで定めているすべての能力・資質が問われる「卒業研究」（または「卒業論文」）を、最終学年次の必修科目として課している。卒業直前に提出された卒業論文の審査・評価も含め、すべての学業成績をもとに教授会により卒業判定の審議がなされる。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
文学部	日本語日本文学科	128 単位	有・無	48 単位
	歴史文化学科	128 単位	有・無	48 単位
教育学部	教育学科	128 単位	有・無	48 単位
人間社会学部	人間社会学科	128 単位	有・無	48 単位
	スポーツ健康学科	128 単位	有・無	48 単位
薬学部	薬学科	192 単位	有・無	48 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/disclosure/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	日本語 日本文 学科	910,000 円	320,000 円	1 年次 200,000 円 2 年次 208,000 円 3 年次 223,500 円 4 年次 229,000 円	施設費　200,000 円 実験実習費最高徴収額(令和 4 年度実績) 2 年次　8,000 円 3 年次　23,500 円 4 年次　29,000 円 ※令和 2 年度から授業料を学年進行で 30,000 円値上
	歴史文化 学科	910,000 円	320,000 円	1 年次 208,000 円 2 年次 214,000 円 3 年次 238,500 円 4 年次 231,000 円	施設費　200,000 円 実験実習費最高徴収額(令和 4 年度実績) 1 年次　8,000 円 2 年次　14,000 円 3 年次　38,500 円 4 年次　31,000 円 ※令和 2 年度から授業料を学年進行で 30,000 円値上
教育学部	教育学科	910,000 円	320,000 円	1 年次 210,000 円 2 年次 218,000 円 3 年次 306,500 円 4 年次 273,000 円	施設費　210,000 円 実験実習費最高徴収額(令和 4 年度実績) 2 年次　8,000 円 3 年次　96,500 円 4 年次　63,000 円 ※令和 2 年度から授業料を学年進行で 30,000 円値上
人間社会 学部	人間社会 学科	910,000 円	320,000 円	1 年次 200,000 円 2 年次 212,000 円 3 年次 255,000 円 4 年次 266,000 円	施設費　200,000 円 実験実習費最高徴収額(令和 4 年度実績) 2 年次　12,000 円 3 年次　55,000 円 4 年次　66,000 円 ※令和 2 年度から授業料を学年進行で 30,000 円値上
	スポーツ 健康学科	910,000 円	320,000 円	1 年次 200,000 円 2 年次 213,000 円 3 年次 215,500 円 4 年次 247,500 円	施設費　200,000 円 実験実習費最高徴収額(令和 4 年度実績) 2 年次　13,000 円 3 年次　15,500 円 4 年次　47,500 円 ※令和 2 年度から授業料を学年進行で 30,000 円値上
薬学部	薬学科	1～4 年次 1,410,000 円 5～6 年次 1,380,000 円	400,000 円	1 年次 400,000 円 2 年次 400,000 円 3 年次 580,000 円 4 年次 580,000 円 5 年次 580,000 円 6 年次 400,000 円	施設費　400,000 円 実務実習費　540,000 円 （3～5 年次の 3 ヶ年で 90,000 円を計 6 回分割徴収） ※令和 2 年度から授業料を学年進行で 30,000 円値上げ

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要）修学支援の専門部署として「障がい学生支援室」を設置し、支援コーディネーター2名（共に公認心理師・臨床心理士）が、授業場面や大学生活において支援を要する学生に適した個々の支援を行うため、相談や合理的配慮の調整等の対応にあたっている。また、支援を必要とする学生へのサポートを担う学生（ピア・サポーター）の育成にも取り組んでいる。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要）就職支援は、1年次から年次に沿って体系的に行なっています。 企業、公務員、福祉、保育士等を希望する学生には、「将来設計」、「進路を明確にする」、「就職活動」の各段階に応じてサポートプログラム・該当支援行事を用意し、個々の希望に合わせた支援を行なっています。 教職志望の学生には「教職教育センター」において、教員免許状取得に関わることから教職に就くまでを一元化し、学生一人ひとりのニーズに応じた支援を行なっています。 教職志望の学生には、学校現場経験および行政経験のある教職アドバイザーが常駐している「教職教育センター」において、教員免許状取得に関わることから教職に就くまでを一元化し、支援している。学生の様々な相談に応じる他、独自のプログラムを用意し学力や知識及び実践力の双方について、学生一人ひとりのニーズに応じた支援を行っています。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生相談室カウンセラー（公認心理師・臨床心理士の有資格者）が、学生・保護者 へのカウンセリングや心理教育を中心とした心理支援、及び教職員へのコンサルテーション を行っている。また、新入生を対象に心理・精神状態を測定するスクリーニングを実施し、 大学不適応に陥るリスクのある学生を抽出し、関係部署と連携の上、早期介入・心理支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/disclosure/

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F127310108063
学校名	大阪大谷大学
設置者名	学校法人　大谷学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		363人	334人	376人
内訳	第Ⅰ区分	221人	207人	
	第Ⅱ区分	89人	89人	
	第Ⅲ区分	53人	38人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				376人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	–	0人	0人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	–	0人	0人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	15人	0人	0人
計	26人	0人	0人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0人	0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	32人	0人	0人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	32人	0人	0人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。